

所員の使命感と責任感に期待する

沖縄県立総合教育センター
 所長 玉城 哲也

9月14日から3日間、本センターの「前期・離島長期研修研究報告会」が行われ、32名の研修員が6ヶ月にわたる研究の成果を発表した。どの発表者も、聞く人々の目を見て堂々と発表する姿が印象的であった。ものすごい集中力で迫ってくるような発表ぶりに、研究成果の全てををれなく伝えようという強い気持ちが伝わってきた。そして、質疑応答では優しい眼差しで丁寧に答えており、とても輝いてみえた。

報告会の終了後には、指導主事や報告を聞きにいらっしやうった同僚や上司など学校関係者とも話をしている場面があり、対応する姿に「人格を磨き人間的な成長を図る機会が図れた」という光景だと感じた。人は話すことによって自分自身を見つめることができる。自分の研究を、多くの児童生徒や同僚たちへ伝え、役に立ちたいといった研修員の思いに溢れた3日間だった。研修員の皆さんに、このような気持ちを育てた指導主事等には改めて敬意を表したい。

3月の「後期・1年長期研修研究報告会」では53名が発表する予定である。今から楽しみにしている。

さて、この夏リオリンピックが開催された。ここで成功を遂げた選手の報道に注目したい。「高い志のもと目標を高く掲げ臨んだレスリングの選手」「常にプラス思考で臨んだ陸上の選手」「想像力をかき立てイメージトレーニングを積み重ね試合に臨んだ体操の選手」「素直さが持ち味の柔道の選手」、そして全ての選手に共通するのが、「感謝の心」を持っているということである。パラリンピックの選手たちも同様なことを話しており、共生社会に向かうための理解を促すような報道と併せて心に残っている。この夏の出来事は、児童生徒だけでなく、彼らを指導する先生方にも何らかの影響を及ぼしたことだろう。

しかし、このような嬉しい報道の一方で、わがままで自己中心的な殺人事件、いじめが原因の中学生の自殺、無抵抗の人を暴力で殺す10代の若者の事件など、悲しい事件も多くあった。

私が教員に成り立ての1980年代を思い出す。校内暴力が

多発した時代であり、私の勤務していた中学校も生徒の放火により校長室が全焼した。まだ若かった私は「今の生徒は大変。社会が悪い。」と言ったが、先輩教師は「教育が悪いからだよ。」と諭してくれた。その後、校長が中心となって、学校での教育はどうあるべきか、地域社会でできることは何か、家庭ではどうしたらいいのか等の話し合いが重ねられ、学校改革がなされた。

第189回国会(平成27年2月)安部内閣総理大臣施政方針演説等では、以下のことが述べられている。「多様な人、多様な学び、多様な生き方を受け入れ、認め合う社会を目指す日本であってほしい。そして子どもたちの誰もが自信を持って学び、成長できる環境を創るのは私たち大人の責任である。だれもが安心安全で幸せに生きていける社会を創りたい。」その大人の中心となるのは、学校教育を担う我々である。教育の力が大いに期待されている。

そのためには、全ての子どもに、人として当たり前のことができる力を保障することが、私たちの使命である。一つ目に、基礎学力を身につけさせること。学力がないと人の話を理解することさえ難しいからである。言葉は教育の基本ツールである。二つ目に道義的なことを身につけ、正しい道を歩ませること。何も難しいことではない。人に迷惑をかけない、人を傷つけない、といった当たり前のことである。こうして、常に人を敬う心をもって素直に学び、感謝する心を忘れない、心優しい子どもを育てたい。安心安全な社会の創造は、全ての子どもにこのような力を保証することから始まる。

教育センターは、これまで、研修員の指導、出前講座、各種研修会等、教育の研究と先生方の資質向上に寄与する場として、高い使命感と責任感をもって邁進してきた。報告会を通して、指導主事等が研修員の研究心を奮い立たせたことの功績は大きい。現場へ戻っても、その情熱で教育活動をされることだろう。これからも、教育研究の場としての使命感と責任感をもち、より優秀な教育者育成の場として、更なる発展を期待する。

***** もくじ *****

●巻頭言 「所員の使命感と責任感に期待する」	所長 玉城 哲也	-1-
●平成28年度第2回教育講演会(公開授業及び講演会)	～教科研修班～	-2-
●環境を通して行う教育 ●平成28年度 第1回特別講演会について	～教育経営研修班～	-3-
●自主講座 小学校・中学校の先生達をサポート! ●親子で「体験学習教室」	～理科研修班～	-4-
●平成28年度特別支援教育課程等研究協議会 ●教師の専門性の向上に向けて	～特別支援教育班～	-5-
●平成28年度教育情報課推進講座 ●今年も大盛況! 夏期短期研修!!	～IT教育班～	-6-
●キャリア教育の支援(出前講座) ●農工商連携プログラムで生徒実習	～産業教育班～	-7-
●前期・離島長期研修研究報告会 ●研修を終えて ●平成29年度長期研修員募集のお知らせ(ご案内)		-8-

平成28年度第2回教育講演会（公開授業及び講演会） —小中学校国語科古典の授業—

1 はじめに

去る7月29日(金)、第2回教育講演会(公開授業)が、本センター多目的棟講堂にて行われました。

今回は秋田大学教育文化学部附属小学校教諭大庭珠枝氏と秋田県立秋田南高等学校中等部教諭志田裕子氏をお招きし、それぞれ沖縄市立山内小学校5年生(浦崎直哉校長)、沖縄市立山内中学校2年生(島袋克校長)を対象とした公開授業(国語科)及び授業研究会を行いました。



写真1 秋田大学教育文化学部附属小学校 大庭珠枝先生

2 公開授業①「自ら問いをもち、話し合いを通して問いを解決していく探求型授業」 ～小学校高学年古典の授業を通して(枕の草子：秋は夕暮れ・・・)～

公開授業①では本時の学習問題を「筆者が、鳥でさえ『あはれなり』と言っているのはなぜか。」として行われました。問題追及の場面では、一般的にあまり印象のよくないカラスでさえ、なぜ筆者は「あはれなり(しみじみとして趣がある)」と言っているのでしょうか。」と問題を焦点化して、児童の思考にゆさぶりをかけ授業を展開していきました(写真1)。児童は教科書の叙述をもとに「寝床へむかってあわてて飛んでいるところがいい」等と条件付きでカラスの良さを読み取っていきました。さらに雁の群れ、風の音、虫の音等、無条件でよいものが後半の部分に書かれていることを全体で確認し、「筆者はなぜこのように書き分けたのか。」と問いかけました。児童は教師の発問を自らの問いとして納得し問題に取り組んでいる様子がみられました。

3 公開授業②「異本の比べ読みを通して、古典作品に表れた作者のものの見方・考え方に迫る」～古の心を訪ねて…扇的「平家物語」より～

公開授業②では、本時のめあてとして「扇的の最後の4行に着目して『平家物語』に描かれたものの見方や考え方について自分の考えを

もとう。」を設定して授業が行われました。

授業者は生徒の思考の深化を促すために、平家物語の異本(延慶本)を示し、教科書と異本を読み比べることで「作者はなぜ最後の4行を書いたのか。」と、さらにめあてを焦点化して、生徒の思考をゆさぶりました。生徒からは、「戦闘状態にある武士の中にも、『あ、射たり』と言う者もいれば『情けなし』と言う者もいて、同じ源氏方にも、違った見方がある」という意見がでて、こういうところに平家物語の面白さがあり長く語り継がれている要因の一つであることが確認されました(写真2)。



写真2 秋田県立秋田南高等学校中等部 志田裕子先生

4 秋田県の教育について(授業研究会での講話から)

公開授業後の授業研究会では、「秋田県の教育について」のご講話をいただきました。秋田県の平成28年度の重点課題は『「問い」を発する子どもの育成』です。具体的には、教材から児童生徒自ら「これはどういうことなのか」と課題を見つけ、その課題に対して他者と関わりながら、「こうしてみたら?」「こうなるのでは?」と課題解決の場においても「問い」を発しながら課題に取り組んでいく授業を大切にしていることが分かりました。

5 おわりに

本センターでは、本県の教育課題やニーズに応じ、調査研究事業の一つとして、教育講演会を年4回実施しています。

調査研究事業のプロジェクト研究では、「確かな学力」を育成するための理論研究・実践研究を実施し、そこから得られた新たな知見を平成29年2月4日(土)に行われます研究発表会にて各学校、教育関係者へ提供し、学校教育の充実と本県の教育課題の解決に向けて邁進してまいります。

「環境を通して行う教育」
～平成 28 年度幼稚園初任者研修・
10 年経験者合同研修を終えて～

去る 6 月 17 日 (金) に、北谷町立浜川幼稚園において、合同研修会を行いました。

今年度は、公立、私立幼稚園新規採用教員が 41 名、認定こども園から 10 名、10 年経験者教員が公立、私立幼稚園から 26 名、初任者研修指導員や県及び各市町村教育委員会関係者など総勢 100 名の参加でした。

午前中の公開保育では園児が友だちと一緒に園庭の固定遊具で遊んだり、砂や水、身近な植物を遊びに取り入れたりしていました。また、虫を探し昆虫と触れ合ったり、自分たちで育ててきた夏野菜を収穫するなど、園の室内や室外のいろいろな環境と関わりながら過ごしている様子が見られました。さらに、運動会練習も参観することができました。伸び伸びと踊って表現することを楽しんだり、カー杯走ったり、友だちを一生懸命応援する姿も見られました。

公開保育を行った 10 年経験者の米盛光代教諭の保育と、子どもたちの導線を考えた環境構成を実際に見ることで、参観した教諭は多くの気づきを得ることができ、改めて自分の保育を振り返る良い機会になりました。

午後は、公開保育の振り返りと「環境を通して行う教育について」の協議を行いました。初任者と 10 年経験者が混



「環境を通して行う教育について」の協議

在するグループで協議を進めていくことで、お互い、これまでの経験を踏まえた視点で捉えた話し合いができました。その中で「物的・人的・空間的環境を相互に関連させながら幼児が主体的に環境に関わり活動を行っていくことが大切だ」という感想があり、改めて環境を通して行う教育の重要性を痛感した教諭もいました。

最後に、本研修のまとめとして、園児が主体的に環境に関わり豊かな体験をしていくためには、発達に応じた適切な環境を教師が構成しなければならないこと。さらに、幼児にとって、自分の行動を温かく見守り、必要な援助の手を差し伸べてくれる教師がいることにより「幼稚園って楽しい」という場となることが大切であること。そして、その喜びこそが「生きる力の基礎」を培うということにつながっているということを確認して研修を終えました。

平成 28 年度 第 1 回 特別講演会について

平成 28 年 6 月 14 日、本教育センター本館講義室において、「長期研修必修講座第 1 回特別講演会」が行われました。

本講座は、「明日を担う児童・生徒の教育に携わる教育関係者が、豊富な経験及び実践に基づいた講話を拝聴することで、今後の教育方策等に資する機会とする」を目的とし、講師に本教育センター第 19 代所長 (平成 18 年度) 又吉孝一先生をお迎えいたしました。「中堅教員に期待すること—教育活動のリーダーになれ—」の演題で、時折ユーモアを交え熱く語っていただいた 80 分でした。

これまでの又吉先生の豊富な御経験から、具体的な教育活動での実践事例や、本教育センターでの研修についてのアドバイス、資料やデータの整理術、学び続けることの大切さなどの人生哲学まで多岐に渡り、大変多くの示唆に富んだ内容で、今回の研修の目的が達成されました。

研修員の感想からは、「この研修を充実したものにしていかなければならないと改めて感じました。教師としての資質を高め、中堅教員としての立場を自覚していきたいと思います。」「長期研修の素晴らしさを私自身とても感じている中での又吉先生の言葉が大変身に染みました。顔施と面授、今後はこの言葉を念頭において頑張りたいです。」「まず仲間同僚をつくり共に働くことが大切。自分の職場での立ち位置を理解し、後輩教師をリードできる教師になりたいと思いました。また、中堅ということは先輩教師から学ぶ姿勢も大切なのでここも頑張ります。」などとあり、学校現場においてミドルリーダーとして活躍していく上で大変参考になる講話であったことがうかがえました。



自主講座 小学校・中学校の先生達をサポート！

「小学校理科講座」「技術・家庭科講座」

小学校理科を担当する先生方を対象とした自主講座が、今年度で7年目となります。勤務後にも関わらず多くの参加者があり、複数回参加する先生もいます。今年度は、「問題解決8つのステップ」を軸に、理科の実験方法の指導や解説、教材作りや情報交換などを行っています。

「理科専科を初めて引き受ける」「理科は苦手」という先生も多いことから、今年度は「基礎講座」を含め、全11回の講座を計画し、小学校理科の授業と先生方をサポートしていきます。初等理科の担当をはじめ、物理、化学、生物、地学の主事も一緒に指導に当たっています。

9月以降に5回の講座があります。多くの先生方の参加をお待ちしております。

また、技術・家庭科でも、小学校・中学校の先生を対象に、4回の講座を実施しました。各学校には相談できる方が少ないため、道具や機器の正しい使い方や、学習指導への疑問につい

て協議・実践を深めました。次年度は是非参加してみてください。



第1回小学校理科講座の様子

※講座案内は、本センターHPに掲載しています。ご覧ください

<http://www.edu-c.open.ed.jp/>

親子で「体験学習教室」

親子星空教室と夏休みおもしろ科学教室

「親子星空教室①」(6/11:親子41名参加)と「夏休みおもしろ科学教室」(7/16:親子約120名参加)を開催しました。

親子星空教室では、天候不良のため、室内での学習となりました。前半は天体に関する内



星空教室の様子

容を学習し、後半は蛍光剤と紫外線ライトを使用し、オリジナルの星座作りを行い、天体への関心を深めました。

夏休みおもしろ科学教室では、小学校4年生以上を対象に、A～Fの6分野から2分野選択し、60分ずつ保護者と共に体験してもらいました。

各クラスでは実験・観察やものづくり等の活動を行い、子供たちは学習する喜びを実感していました。

また、子供だけでなく保護者も共に真剣に取り組む「大人も楽しめる内容でとても良かった」「科学が身近に感じた」「もっと日数を増やし

てほしい」などの感想があり、親子共々科学に対して興味関心を高めるきっかけになったと思います。

各分野での体験内容



A:物理 光のふしぎ



B:化学 ていおんのせかい



C:生物 草花のしおりづくり



D:地学 3Dメガネで岩石観察



E:技術 プログラムで動かそう



F:家庭 ケーキをつくらうか

平成 28 年度特別支援教育課程等研究協議会
～特別支援教育に関する教育課程等について～

平成 28 年 7 月 11 日（月）に国立オリンピック記念青少年総合センターで、「平成 28 年度特別支援教育課程等研究協議会」が行われ、教育センターから 2 名の主事が参加しました。

全体会では、初等中等教育局特別支援教育課長太田知啓氏より、特別支援教育における教育課程の編成の充実に向け、学習指導要領の法的な根拠、平成 21 年改訂のポイント、学習評価について再確認が行われました。評価に関して、学力の 3 要素（学校教育法 30 条・学習指導要領総則）である「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」と学習評価の 4 観点の確認や P D C A サイクルによる教育活動を組織として改善することの重要性が示されました。

また、道徳教育の改善・充実に向け「道徳の時間」を「特別の教科道徳（道徳科）」として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正、今後の学習指導要領改訂に向けた方向性（案）や教科横断的（カリキュラム・マネジメント）な視点及びアクティブラーニングにおける視点として「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」等による授業改善にむけた文科省教育課程部会の現況報告がありました。さらに、今後の特別支援学級教育課程、高等学校における制度化を含めた通級による指導についての行政説明も行われました。

障害別分科会では、6 部会（視覚障害教育、聴覚障害・言語障害教育、知的障害・自閉症・情緒障害教育、肢体不自由教育、病弱・身体虚弱教育、LD・ADHD 等教育）があり、今回は、病弱・身体虚弱教育部会、視覚障害教育部会に参加しました。

病弱・身体虚弱教育部会では、病気の子どもの交流及び共同学習において、沖縄県立森川特別支援学校の県内 8 つの院内学級へのサポート、スカイプを活用した前籍校とのつながりや復学に向けた取組が紹介されました。

視覚障害教育部会では、神戸市立盲学校の近隣園や近隣校との交流及び共同学習、居住地校交流、高等部においては、卓球部とフロアバレーボール部のスポーツを通じた近隣校との交流及び共同学習の取組が報告されました。

教師の専門性の向上に向けて
～夏期短期研修より～

文部科学省による「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について」（報告）概要（平成 28 年 3 月 31 日）によると、「インクルーシブ教育システムの理念も踏まえ、中学校による通級による指導を受けている生徒が年々増加傾向にある事から、高等学校においても障害に応じた特別の指導を行えるようにする必要がある。」と述べられており、高等学校においても特別支援教育における教師の専門性が求められています。

本センターにおける夏期短期研修「発達障害教育（中・高）講座」においても「発達障害の基本的な特性理解及び様々な視点から生徒を理解する力、発達段階における課題に対応する力を高める」ことを目的とし、教師の専門性の向上に向け、宮城女子学院大学教授、梅田真理先生を招聘し、ご講義をいただきました。定員を大きく上回る受講希望があり、その中でも、今年度は高等学校からの受講申し込みが増加していることから、高等学校における特別支援教育への関心の高さ、専門性を高めたいという先生方の意欲の高さが感じられました。

講義は、「発達障害のある生徒理解～二次障害への対応も含めて～」というテーマのもと、発達障害の特性理解から授業における支援方法、二次障害への対応、そして、自立に向け、ライフステージを通して、私たち教員がどのように関わっていけば良いのかを具体例をもとにご教授いただきました。さらに、今年度施行された「障害者差別解消法」に伴う、学校における合理的配慮について「大学入試センター試験における配慮（平成 28 年度版）」を例に具体的な取組についてご説明いただきました。

受講後のアンケートには「二次障害を防ぐためには『気づき』『チーム支援』がいかに大切であるかを学びました。」「生まれ持った障害は治ることはないが、改善を図ることはできる、という言葉聞き、支援方法を見だし、本人の自己理解を促すことで状況は変わるのだと感じました。」「現場の子どもたちの顔が浮かび、支援方法や自立について鮮明にイメージすることができました。真剣に考え、寄り添い向き合っていきたいと気持ちを新たにしました。」等、教師の専門性の向上に向け、さらに、特別支援教育の充実に向けて多くの示唆を与えていただいたとの感想が数多く寄せられました。

平成 28 年度 教育情報化推進講座

教育情報化推進講座は、本センターが実施する教職員悉皆研修事業の一つです。文部科学省、沖縄県教育委員会が目指す「教育の情報化」を推進するため、それぞれの方針と現状や課題を確認するために実施しています。

本年度は教頭（学校 C I O）を対象とし、

① 教育の情報化推進における学校 C I O の役割を認識し、学校現場における教育の情報化の推進に努めることができるようにする。

② 教員の I C T 活用指導力育成や学校での情報モラルに関する指導の重要性を認識し、児童生徒が情報社会を生き抜くための能力や態度を育成できるようにする。

の 2 つを目的として、「沖縄県における教育情報化の取組」「沖縄県・各地区における教育の情報化推進の課題」「I C T 活用指導力アップガイド活用（情報モラル）」について講座を行いました。

その中で、教育の情報化は学校 C I O がリーダーシップを発揮して取り組むことの重要性、求められるのは、スキルではなくマネジメント力であることをお伝えしました。また、教師の活用から児童生徒の活用へシフトすることの必要性、情報活用能力調査の結果から高大接続改革を見据えた「情報活用能力の育成」の重要性も理解してもらうことができました。

その他にも、県立高等学校の教頭には、2 月より I T 教育センターが提供を開始した新サービス (Office365) と、新進路相談支援システム (入れ替え時期、SA.net、図書情報管理システム) について説明し、これまで以上の活用とスムーズな移行について理解してもらえました。

参加された教頭からは、「C I O としての役割を自覚し、学校でどのように役割を果たしていくかを考えました。日頃、情報担当に担わせていることを教頭もしっかり自覚し、協同体制で実施していかなければならないと思いました。」「情報教育推進教諭とよく話し合っていきたいと思います。特にモラル教育については早急に行いたい。」等、情報教育担当職員との協力体制のもとに取り組んでいくという前向きな意見が数多くあり、本県の教育の情報化を一步前進させる充実した講座となりました。



教育情報化推進講座の様子

今年も大盛況！ 夏期短期研修！！

夏期短期研修事業は、本センターが実施する教職員研修事業の一つです。学校現場が抱える今日的教育課題の解決や、各教師の教育的ニーズに応えるため、教科・領域等に関する実践的指導力の向上と、教員としての資質を高め、本県教育の活性化と発展に資することを目的として実施しています。

本年度は、73 種 77 講座を開設し、定員 2,851 名に対し、昨年以上の 3,933 名の応募がありました。応募率の一番高い講座は応募率が 445%、他にも定員を上回った講座が 45 講座あり、先生方の研修に対する高いニーズがうかがえました。そこで、センターとして一人でも多くの受講者を受け入れることができるよう各班で会場の調整などを行い、定員を 350 名上回る 3,201 名の先生方が受講されました。

I T 教育班では、8 種 10 講座を実施し、受講者からは、「基本的なことから実践まで体験することができ、他の先生方からもヒントをたくさんいた

だきました。これからの授業での活用方法を考えていきたいと思います。」「長時間の講座だが、様々な工夫がなされていて、興味深く受講することができた。活用できるようになると仕事も効率的に進めていくことができるので、ぜひ活用していきたいです。」等、夏休み明けから I C T 機器を積極的に活用したいという声が多数ありました。

10 月には機器の入替えもあり、今後も先生方の教育的課題の解決に添えるよう、より実践的な研修の工夫充実を図っていく予定です。



授業に役立つ I C T 活用講座の様子

キャリア教育の支援 (出前講座) ～中・高連携講座の取組～

産業教育班では、中学校へのキャリア教育の支援として、商業高校と連携した中学校でのビジネスマナー講座を実施しております。

今回の内容は、職場体験の事前学習として「ビジネスマナーとは何か」を学んだあと、「あいさつ」や「電話応対」の実践練習を行いました。実践練習では、専門高校で学ぶ生徒たちが、身に付けたスキルを生かしリトルティーチャーとして中学生の指導にあたりました。産業教育を学ぶ高校生にとっては、自己の将来のために身に付けた技能を、中学生に伝える実践を通して、技能の定着と自己効力感の獲得につながり、中学生にとっては職業をより身近に感じる機会となると考えます。これからも産業教育を生かした充実したキャリア教育の支援に向け取り組んでいきます。



ビジネスマナー講座 緑風学園 with 名護商工高等学校



農工商連携プログラムで生徒実習 ～定時制・通信制の生徒による初めての取組～

去った7月23日、産業技術教育センターにて「第13回沖縄県高等学校 定時制通信制ワープロ競技大会」が開催され、審査を待つ間、出場選手35名が農業・工業・商業を学ぶ、農工商連携プログラムによる生徒実習を行いました。以下の写真はその様子です。

平成10年に当施設が、産業教育共同利用施設として開所以来、当班では産業教育に係る専門学科の生徒を対象に、最先端技術装置及び高度情報機器を活用した実習を実施しており、昨年も172回、

のべ約3,000人の生徒が実習を行っています。

しかしながら、これまで時間の関係上、定時制・通信制に通う生徒がセンターを利用する機会は皆無に等しい状況でした。今回の実習を終えた生徒が、体験した実習について積極的に話す様子を見ると、学校では体験できない最先端の装置や機器を活用した実習に満足したことがわかりました。

この取組をきっかけに定時制・通信制の生徒にとっても、センターの利用が広がることを期待します。



分析実習 (食品加工 発酵酸乳飲料作り)



バイオ実習 (グリーンアレンジメント)



ビジネス実習 (コンビニ経営)



機械実習 (キーホルダー製作)



通信・制御実習 (ビュートレーサー)



マルチメディア実習 (高速カメラ)

平成 28 年度 前期・離島長期研修研究報告会

平成 28 年度前期・離島長期研修研究報告会が9月14日(水)～16日(金)の3日間の日程で、本センターで開催されました。今回は前期長期研修員27名、離島長期研修員5名の計32名が各自のテーマに基づき、教育課題解決のための意欲的で熱意の伝わる報告を行いました。当日の様子はセンターのHPよりライブ配信されていました。また、会場には関係学校長や教諭の方々等多くの参加があり、関係各位の激励を受けた研修員一同、6ヶ月の研究成果を十分に報告することができました。



研修を終えて



理科研修班
国頭村立国頭中学校
教諭 與那嶺 紀子



IT 教育班
県立与勝緑が丘中学校
教諭 武原 義也

期待と不安を胸に総合教育センターの門をくぐった4月から、早半年が経ちました。センターでの半年間は、学校現場を離れる事が初めての私にとって毎日が新鮮で、たくさんの事を学ぶ機会となり、充実した半年間でした。普段は、教壇に立ち、教える立場の私たちですが、研修期間中には学ぶ側となり、研究や講座、講演会などたくさんの研修を通して「学ぶ事は楽しい!」「もっと学びたい!」と感じました。

また、理科研修班では、2泊3日の野外実習があり、寝食を共に過ごし研修をすることで、仲間意識が強くなり、この半年間、切磋琢磨し研修を終えることができたと思います。班長をはじめ主事の先生方には、授業作りや理科班でのゼミナール、検討会や報告会に向けてとても熱心に指導をしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。この半年間で学んだことをこれからの教員生活に生かし、「学ぶ楽しさ」を伝えられるような教師を目指し、これからも指導力向上に努めていきたいと思っています。

はじめに、総合教育センター I T 教育班において研修の機会を頂けたことに対し心より感謝いたします。この半年間、教師としての自分自身の今までを振り返り、実践してきた授業に対して真摯に向き合い、課題について考えさせられた日々でした。研究テーマ決定後は、夢中でPCに向かい、研究を進めてきました。研究に行き詰まり、悩んだ時には所長をはじめ、IT教育班班長、主任、主事の先生方から、時には厳しくも温かく、そして適切且つ多方面からのきめ細やかなアドバイス、ご指導をいただき、研究を深めることができました。これらは決して一人でできることではなく、無事研究を終えることができたのも、多くの方々の支えのおかげだと思います。また、半年間共に過ごした研修員との出会いもかけがえのない宝物となりました。研究内容やそれぞれの学校のこと、教育に関する考え、いろいろなことを話し、時には研究の悩みを共有しながら議論を重ね、解決策を見いだしたこともありました。仲間と切磋琢磨し、支え合い、高め合い、共に成長しながら日々の研修を送れたことはすばらしい思い出であり、今後の教師生活の中での貴重な財産となりました。

最後に、この研修を通して得た出会いに感謝し、研修の成果を児童生徒、職員に還元できるよう、教育センターに入所したあの日の初心を忘れることなく、これからの教育活動に取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

平成 29 年度長期研修員募集のお知らせ

研修目的

※詳細については、各学校に送付されている募集要項にてご確認ください。

- 本県の教育課題の解決・改善及び教科・領域での指導方法の工夫・改善を図るための理論研究
- 各講座等を通して教職員としての資質向上を図り、学校現場における課題解決に対応できる人材の育成